沖高生の軌跡（キセキ）

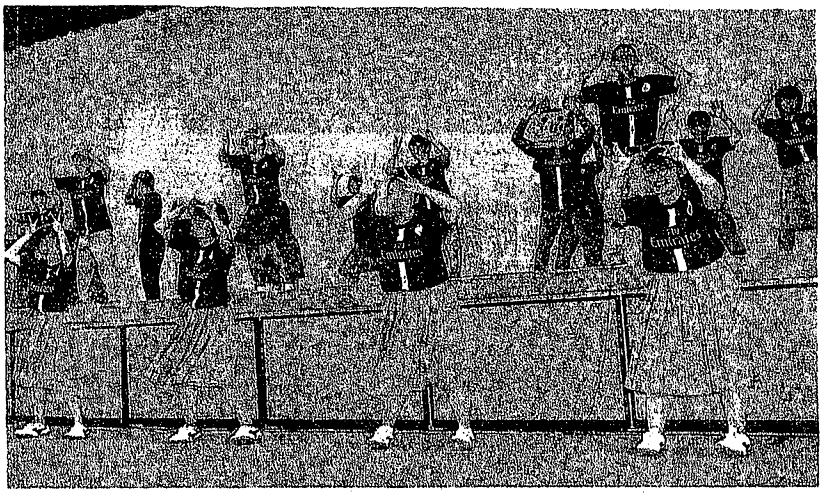
令和２年７月20日

情報元：南海日日新聞社・奄美新聞社
日　付：令和２年７月18日

多彩な舞台や作品展示

文化祭で劇やダンス

沖永良部高校



軽快にダンスを披露する沖永良部高校の生徒＝17日、同校体育館

【沖永良部総局】県立沖永良部高校（室屋洋一校長、生徒253人）の2020年度文化祭は17日、同校体育館であった。生徒たちは劇やダンス、エイサーなど多彩な舞台発表や作品展示で日ごろの部活動などの成果を披露し、会場を盛り上げた。

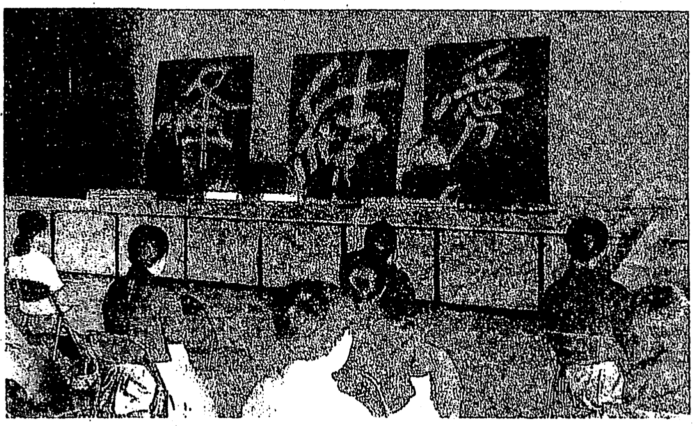
63回目となる今回のテーマは「笑舞～はばたけ記憶に残る1ページ」。舞台は書道部による書道パフォーマンスで開幕。エイサー部は華麗な演舞を披露し、3年生は練習を重ねた劇やダンスでステージに花を添えた。

各教室や武道館には黒板アートや動画作品、書道作品などが展示され、来場者を楽しませた。

新型コロナウイルス対策として、プログラムを縮小して実施。会場の小まめな換気や来場者の検温など感染症予防策も徹底した。

練習の成果披露

沖永良部高校で文化祭



蛍光塗料を混ぜた墨で文字を書き上げた書道部＝沖永良部高校＝

【沖永良部】沖永良部高校（生徒数253人）で17日、第63回文化祭が行われた。書道パフォーマンスを皮切りに、劇やダンスなどこれまでの練習の成果を披露した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で1カ月以上延期して行われた。室屋洋一校長は「思う存分楽しんで、記憶に残る文化祭にしてほしい」とあいさつ。

オープニングを飾った書道部は、「高い壁の先は輝く道が待っている」などのメッセージや、蛍光塗料を混ぜた墨で「愛」「結」「逢」の文字を書き上げた。

舞台発表では、3年1組が「ジブリキャラクターを集めて合コンしてみた」というユニークな設定で劇を発表。ラストは全員でダンスを踊り、観客を楽しませた。

このほか、エイサー部の演舞や有志団体によるバンド演奏で盛り上がった。

1・2先生は、各教室で黒板アートやチャレンジ動画などを展示した。